

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第3週、第4週とインフルエンザの非常に大きな流行状態が続いているが、今週（第5週）は更に患者数が増加する可能性がある』

2018年1月30日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第4週（1月22日～28日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は前週の値（1,775,796）とほぼ同数の1,774,469であり、第3週、第4週と流行は横ばい状態となりました（図1）。一方、週明けの月曜日（2018年1月29日）の推定患者数は453,265と今シーズンの1日当たりの推定患者数の最多数を上回っており、第5週（1月29日～2月4日）の患者数は更に増加する可能性があります。

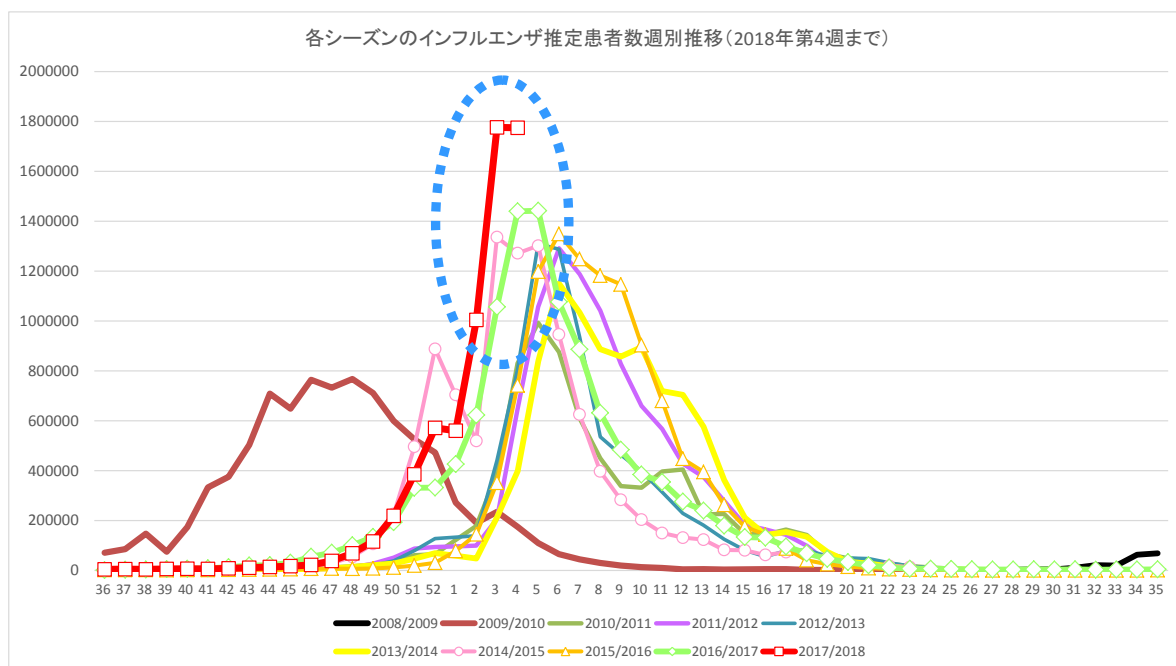


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第4週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第4週の推定患者数=1,774,469）

各都道府県別の第4週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、大分県、三重県、熊本県、奈良県、富山県、岐阜県、鹿児島県、北海道、栃木県、静岡県順となっています。西日本では大半の地域で患者数の減少がみられていますが、首都圏を含む東日本では多くの地域で増加しています。

2017年第36週から2018年第4週までの累積の推定患者数は6,617,470であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は5.22%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(22.89%)、10～14歳(16.08%)、0～4歳(11.97%)、15～19歳(7.54%)、40～49歳(4.67%)、30～39歳(4.52%)、20～29歳(3.92%)、50～59歳(3.83%)、60～69歳、70歳以上の順となっており、5～9歳の累積罹患率は20%を超えました(図2)。

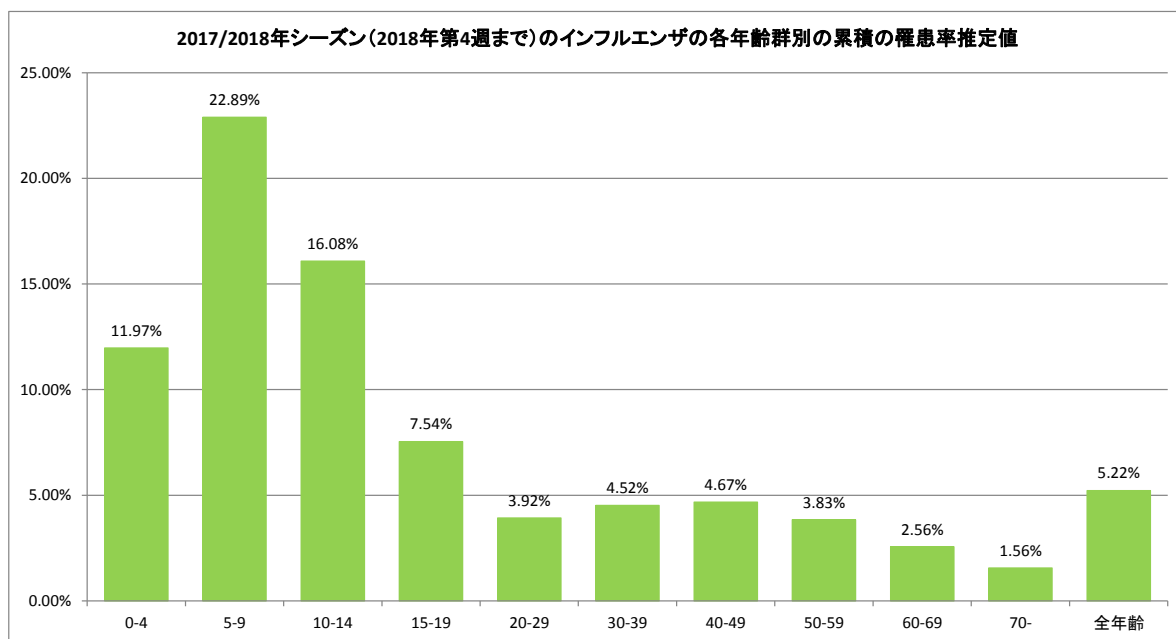


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2018年第3週、累積推定患者数=6,617,470)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,849検体解析)は、A/H1pdm 49.9%、B型 30.6%、A/H3(A香港)亜型が19.5%の順となっていて、A/H1pdmが約半数を占めていることは変わりませんが、B型(特に山形系統)の割合が増加してきています。

第3週、第4週とインフルエンザの非常に大きな流行状態が続いていますが、今週(第5週:1月29日～2月4日)は更に患者数が増加する可能性があります。まだしばらくはインフルエンザの流行に嚴重な警戒が必要です。